

・永福寺↓一遍上人の木彫坐像あり。秋の彼岸の「湯あみ祭り」で住職がお湯に入れる。

永福寺で話を聞き楽しい半日が終わった。



永福寺前の記念写真

## 市外史跡探訪に参加して

松岡謙一郎

十一月十六日の天気は、長期予報を含め雨の予報でした。しかし、明け方には雨もやみ曇り空ではありましたが、行動には不都合のない天気となりました。

バスに揺られ、途中豊前・豊後国境の石柱や大河内伝次郎の生家跡等を見ながら、予定通りの十時半過ぎに「福岡県立求菩提資料館」に着きました。

資料館は主として豊前教育委員会による求菩提山修験道を中心とした史跡研究成果をまとめて展示しています。館長さんによる山中から発見された「銅板法華經」（国宝レプリカ）、「経筒」（国指定重要文化財）をはじめ県指定文化財の仏像、カラス天狗像、求菩提修験道などの説明を受けながら、館内を回り山岳信仰の一端をうかがい知ることができました。

山伏が檀家を増やすために研究した秘薬や山伏坊の生活ぶりを知ることのできる遺物、古文書等興味深い資料を見ることができました。

昼食は「道の駅」でとりましたが、参加者の皆様が好みの食べ物、グループ毎に食べました。

お土産の海産物や農産物をかかえ、次の目的地「羅漢寺」を目指しました。ここで島節子理事さんの指導のもとに「里の秋」「紅葉」「故郷の空」など秋に因んだ歌や「健康は歩いてこない」という健康は自分で作ろうと呼びかける歌を歌いながら、午後のひと時をバスに揺られました。島さんの「瓜生島の歌」の独唱を聞いて、色付いた柿畑や、少し早い紅葉を見ながら目的地に着きました。

「羅漢寺」には、リフトで登りました。本堂の地獄から極楽への堂内くぐりを経験し生まれ変わったつもりになりました。本堂は昭和十八年に焼失したため、昭和四十四年に再建されたとのこと。『耶馬溪羅漢寺畧縁起』によると、「前略」孝徳天皇の大化元年にインドより法道仙人が渡来され地形が釈迦牟尼仏の聖跡ぎしやくつさん闍崛山を彷彿させるところに感じ、久しく、この洞中に留まられました。去るに当たって念持仏として金銅仏一軀を残されたのが当寺の始めと伝えられます。後、平安時代には山岳仏教の霊地として天台宗の時期もあつた様です。——中略——江戸時代には東照宮をまつり、徳川家より百石を給され、三葉葵の紋章と十萬石の格式を許され、

毎年正月、全九州大名の城代家老が参集する日田代官所での年賀式では最上席であつたとされています。——後略——とあり、その歴史の古さと、発展ぶりがうかがえます。

境内の紅葉や対岸の景色を楽しみ、再びリフトで下りましたが、その出だしが急傾斜のため高所恐怖症の人には心臓に良くないかもしれないと思いました。

「今日の日はさようなら」を歌いながら、この日の研修を終えて無事に帰り着きました。大変ありがとうございました。



求菩提山を背景に記念写真